

研究・教育のご紹介 入試のご案内 2020



TOHOKU
UNIVERSITY

東北大学大学院 教育学研究科 総合教育科学専攻
教育情報アセスメントコース

教育情報アセスメントコース 案内

東北大学大学院 教育学研究科 総合教育科学専攻 教育情報アセスメントコース

ICT やデータサイエンスを活用した「教育イノベーション」の創出をめざす。

教育評価測定論（専門領域）

自然言語処理，計量心理学等を含むデータサイエンスを基盤分野として，STEAM教育の時代にふさわしい教育アセスメントの社会実装を目指した研究をする。

教育情報デザイン論（専門領域）

eラーニングやメディア技術・AI/ロボット技術などを活用した，新しい教育のあり方（教育方法・教育環境など）を探求する。

修士課程（博士前期2年の課程） → 修士（教育学） or 修士（教育情報学）

博士課程（博士後期3年の課程） → 博士（教育学） or 博士（教育情報学）

教育情報アセスメントコース 教育評価測定論 教員紹介

柴山 直 教授

教育評価測定論

人の適性・性格・知的能力等を心理学的モデルを通して合理的に数値化することを目標とする教育測定学が中でも専門です。研究の重心を「理念・信念・思い込み」で判断されがちな教育ではなく、客観的なエビデンスにもとづく教育における Evidence Based Accountability の実現においています。また、小論文のAIによる自動スコアリングなどの研究を通して機械学習理論を含むデータサイエンスもカバーしています。

有本 昌弘 教授

教育評価測定論

知識基盤社会への移行やその中での学習の性質の変化に伴い顕著となった格差問題や地域の崩壊は、様々なスクール・ベースト・プロジェクトを必要としています。さらに、震災を機にして OECD-Tohoku School Project が立ち上がっています。そこでは、日本の教師や学校、地域を国際的な議論からエンパワーする埋もれた暗黙知の掘り起こしを可能とし、教師の専門職業人としてのキャリア発達（スクールリーダーシップ）デザインに結び付ける絶好の機会となります。その際に、アセスメントは、政策と実践をつなぐ議論の強力な切り口となります。

熊谷 龍一 准教授

教育評価測定論

テスト理論の一つである「項目反応理論 (Item Response Theory: IRT)」を軸とした、言語・学力・特性テストに関する研究を進めています。数式・計算機言語を多用することから、とかく「理系」視されがちですが、あくまでそれらは「道具」であり、文系・理系を問わず、如何に道具を正しく使うことができるかが重要だと考えています。テスト結果ばかりが目立りますが、それを背後で支えている理論について考えていきます。

松林優一郎 准教授

教育評価測定論

H31年度新設の新しい研究室です。情報科学と教育学の高度な知識とスキルを身につけられる文理横断の教育カリキュラムを取っています。人工知能・自然言語処理が専門です。言語処理×教育アセスメント：人間の知的活動の表出であるテキストデータを使って人間の思考力のアセスメントを試みています。書籍、ブログ、会話、試験の採点データ等の大規模データを背景に、統計や人工知能を用いた高度な情報分析技術で人間の思考の過程に迫り、人間の客観的な能力評価や人工知能技術の発展を下支えする研究を行っています。

佐藤 智子 准教授（協力講座教員）

教育情報応用論（高度教養教育・学生支援機構）

教育を受け学習する場としてまず思い浮かべるのは学校かもしれませんが、しかし、私たちが学習しているのは学校の間だけではありません。実際には大人も子どもも、地域社会や日々の生活の中に埋め込まれて多くのことを学習しています。現代、社会構成主義的な学習観へと転換する中で、多様な「他者」との協同的な学びが求められています。そのような社会的な文脈で人がどのように学び、どのような能力や知識を獲得しているのか（生涯学習論）、効果的な学習を環境や支援として促す具体的な環境デザイン（教育制度・政策論）やその支援方法（学習支援方法論）とはどのようなものかに関心を持って研究を行っています。

渡部 信一 教授

教育情報デザイン論

人間の「知」や「学び」の探究を「コンピュータ、ロボット、そして人工知能と比較して考える」という方法、つまり「人間と機械を比較する」ことによって、そのメカニズムを明らかにしようとしています。

小嶋 秀樹 教授

教育情報デザイン論

認知科学（とくに脳機能やコミュニケーション能力の発達）の研究をしています。認知過程・発達過程のモデル化や、ロボット・人工知能による構成論的実証、教育・障害児療育への実践的応用などを進めています。

熊井 正之 教授

教育情報デザイン論

教育、特別支援、障害、情報をキーワードに、障害のあるひともないひとも共に学びやすい・暮らしやすい環境とはどのようなものか、ひとりひとりのQOLの向上につながる仕掛けとはどのようなものかについて、教育学的、心理学的、教育情報学的研究を行います。

倉元 直樹 教授（協力講座教員）

教育情報応用論（高度教養教育・学生支援機構）

基礎を置いている分野は教育心理学の教育測定分野です。近年は、学問分野にとらわれずに東北大学の学部入試の改善や日本の大学入試の改善を目的とした研究を中心に幅広いテーマで取り組んできました。

<https://www.adrec.ihe.tohoku.ac.jp/>

<http://adchan.ihe.tohoku.ac.jp/>

宮本 友弘 教授（協力講座教員）

教育情報応用論（高度教養教育・学生支援機構）

学力とその規定要因（動機づけ等）に着目し、それらの測定・評価、支援について教育心理学的なアプローチから研究を行っています。教科学習だけでなく、大学入試や生涯スポーツなど、さまざまな分野を対象にしています。

佐藤 克美 准教授

教育情報デザイン論

ICTを用いて学習者の学びを支援しようと試みています。教授者・指導者が学習者を支援するためのICT活用ではなく、学習者が自らの目的・意志に応じて使うICTが生む学びの変化について関心を寄せています。

中島 平 准教授

教育情報デザイン論

情報通信技術を利用して、学びを支援し促進させるための研究をしています。例えば学びの場を記録するとき、単に映像の記録だけでなく、場に参加している人たちの「気づき」や「思い」を加えることで、その学びの振り返りを、より簡単で有意義なものにするシステムの研究をしています。

入学試験について **(修士課程)**

第1期 (9月3~4日)

第2期 (1月27~28日)

一般選抜

外国語 90分 (英語 (外国人の場合は日本語) , 辞書持込**不可**)

専門試験 120分 (教育情報アセスメントコースの専門領域)

面接 (第2日目に実施)

社会人特別選抜・外国人留学生特別選抜

小論文 120分

面接 (小論文と同日実施を予定。志願者数によっては2日目に実施)

入学試験について (博士課程)

第1期 (9月3日) : 社会人特別選抜のみ)

第2期 (1月27~28日) : 一般選抜・社会人特別選抜)

一般選抜

外国語 120分 (英語 (外国人の場合は日本語) , 辞書持込可)

面接 (第2日目に実施 ; 10分間のプレゼンを含む)

社会人特別選抜 (第1日目のみ)

面接 (10分間のプレゼンを含む)

教育情報アセスメントコース 入試案内（連絡先）

研究計画についての相談は

柴山	sibayama@tohoku.ac.jp
有本	arimoto@sed.tohoku.ac.jp
熊谷	ryuichi@tohoku.ac.jp
松林	y.m@tohoku.ac.jp
佐藤智	sato-t@tohoku.ac.jp
渡部	watabe@tohoku.ac.jp
小嶋	xkozima@tohoku.ac.jp
熊井	kum@tohoku.ac.jp
倉元	ntkuramt@tohoku.ac.jp
宮本	tomohiro@tohoku.ac.jp
佐藤克	sato@ei.tohoku.ac.jp
中島	nakag@ei.tohoku.ac.jp

入試や修学に関する問い合わせは

研究科ウェブサイト
<http://www.sed.tohoku.ac.jp/>
教育学研究科 教務係
sed-kyomu@grp.tohoku.ac.jp
tel. 022-795-6105
fax. 022-795-6110

教育情報アセスメントコース (博士課程前期2年の課程) カリキュラムマップ

カッコ内は単位数 (明示なしは 2)

共通科目 (4)

生涯教育科学基礎論 (学部：成人教育論講義 I) 石井山	教育政策科学基礎論 (学部：教育社会学講義 I) 福田	グローバル共生教育論基礎論 (学部：リカレント教育論講義) 松本大	エデュフェア・マインド (1) 安保・後藤・神谷・池尾・ 李・柴山・劉・川崎・島 1Q	必修 (2)	情報リテラシー (1) 小嶋・渡部・熊井・ 中嶋・佐藤・大河・尹 2Q	教育情報アセスメント基礎論 (学部：教育アセスメント論講義) 有本	教育心理学基礎論 (学部：教育心理学講義 I) 工藤	臨床心理学基礎論 (学部：臨床心理学講義 I) 若島
------------------------------------	-----------------------------------	---	---	--------	---	---	----------------------------------	----------------------------------

大学院の共通科目「〇〇基礎論」= 教育学部の専門科目「△△講義」等

専門基盤科目 (8)

教育測定評価論領域の学生も
いずれかの概論を履修することになる

教育情報学 基礎論概論 渡部・熊井・佐藤克
教育情報学 実践論概論 小嶋・中嶋
教育情報学 応用論概論 倉元・宮本

選択必修 (6)

教育アセスメント概論 有本
教育測定学概論 柴山・熊谷
他領域の概論/英語

選択必修 (2)

Practical English
人間形成学 I / II
社会教育学
スポーツ文化論
教育政策科学
成人教育論
学校教育論
多文化教育論
教育心理学
発達心理学
発達障害学
臨床心理学

専門科目 (10)

オープンエデュケーション論
合同演習
教育情報デザイン分野全教員

研究方法、論文執筆作法などを学ぶ。
先輩の発表を聞き、自分の研究計画を策定。
教育情報デザイン論領域の学生は
「履修推奨 (1年次)」となる。

選択必修 (10)
(履修モデル参照のこと)

教育情報学 基礎論特論 I 渡部	教育情報学 基礎論研究演習 I 渡部	教育アセスメント特論 I 有本	教育アセスメント研究演習 I 有本
教育情報学 基礎論特論 II 熊井	教育情報学 基礎論研究演習 II 熊井	教育アセスメント特論 II 松林	教育アセスメント研究演習 II 松林
教育情報学 基礎論特論 III 佐藤克	教育情報学 基礎論研究演習 III 佐藤克	教育アセスメント特論 III 熊谷・柴山・有本・松林・佐藤智	教育アセスメント研究演習 III 熊谷・柴山・有本・松林・佐藤智
教育情報学 実践論特論 I 小嶋	教育情報学 実践論研究演習 I 小嶋	教育測定学特論 I 柴山	教育測定学研究演習 I 柴山
教育情報学 実践論特論 II 中嶋	教育情報学 実践論研究演習 II 中嶋	教育測定学特論 II 熊谷	教育測定学研究演習 II 熊谷
教育情報学 実践論特論 III 山下 (非)	教育情報学 実践論研究演習 III 山下 (非)	教育情報学 応用論特論 III 佐藤智	教育情報学 応用論研究演習 III 佐藤智
教育情報学 応用論特論 I 倉元	教育情報学 応用論研究演習 I 倉元	国際教育論 I 陳 (非)	国際教育論 II 未定 (非)
教育情報学 応用論特論 II 宮本	教育情報学 応用論研究演習 II 宮本	自由単位 (修了要件外)	その他の専門科目 (他コース・研究科・学部)

(8)

必修

課題研究 (8)
各教員

1年次の1/31までに
課題研究論文を提出。
指導教員・副指導教員による
審査に合格することで8単位。

修士論文
各指導教員/副指導教員

前提条件：課題研究を含めて20単位以上。
2年次の6/30*までに修士論文題目提出。
1/10*までに完成版論文+内容要旨を提出。
その後、審査委員会による論文審査。
2/5*に最終試験 (プレゼン+質疑応答)

修了要件：共通科目(4以上) + 専門基盤科目(8以上) +
専門科目(10以上) + 課題研究(8) = 30単位以上 +
修士論文の審査・最終試験

*の日付は目安

教育情報アセスメントコース (博士課程後期 3年の課程) カリキュラムマップ

カッコ内は単位数 (明示なしは 2)

共通科目 (1)

修士課程で未履修の場合は
両科目の履修を推奨

エデュフェア・マインド (1)
安保・後藤・神谷・池尾・
李・柴山・劉・川崎・島 **1Q**

**選択
必修
(1)**

情報リテラシー (1)
小嶋・渡部・熊井・
中島・佐藤・大河・尹 **2Q**

ISTU での
受講も可能

自由単位
(修了要件外)

その他の共通科目

国際教育論 I・II,
海外研究活動 I (1)・II (1),
院生プロジェクト研究 (1)

専門科目 (8)

1年目の
履修を想定

教育情報アセスメント
特別研究 I
(各教員)

特定研究論文 I
(各教員)

すべて
必修
(8)

教育情報アセスメント
特別研究 II
(各教員)

特定研究論文 II
(各教員)

2年目の
履修を想定

自由単位
(修了要件外)

他コースの
特別研究 I・II

博士論文
各指導教員/副指導教員

前提条件：修了要件の9単位を修得。
学術誌・学術書での論文発表 3 編以上。
3年次の 4/20* までに博士論文執筆計画書提出。
博士論文執筆資格審査 (10/20* までに追申請可)
点検委員会による点検を経て、
1/10* までに完成版論文 + 内容要旨を提出。
その後、審査委員による審査、最終試験。

修了要件：共通科目(1以上) + 専門科目(8以上) = 9単位以上
博士論文の審査・最終試験

*の日付は目安